

社会的事象への感心を高める手立ての工夫

～新聞記事を活用した取組をととして～

日向市立大王谷小学校
主幹教諭 栗栖 健治

I はじめに

NIE 実践校の指定を受け、できることから、続けられる取組を進めたいと考え取り組んできた。今回は、実践指定校1年目の実践を報告したい。

II 新聞記事を活用した実践

- 1 第5学年社会科の学習
- 2 日常の活動
- 3 家庭との連携

III 具体的な実践

- 1 第5学年社会科の学習

(1) 実践1

① 単元名

「わたしたちの暮らしと食料生産」

② 概要

小単元「米づくりのさかんな庄内平野」の学習のまとめとして、米づくりについて学習してきたことを活用して東日本大震災の被害を受けた地域の米づくりについて考えさせることをねらって取り組んだ。

東日本大震災の津波のため塩害を受けた田で除塩を繰り返しながら米づくりを続けた農家の記事(朝日新聞 2011.5.12)を活用した。学習の流れは以下のとおりである。

- 1 学習の振り返り
- 2 東日本大震災についての簡単な説明
- 3 記事についての説明
- 4 分かったことを書く。(理解させる)
- 5 自分の考えを書く。

(学習内容と関連付けさせながら、自分の考えをもたせる)

- 6 友達の考えを聞く。(考えを広める)
- 7 友達の考えを聞いた後の自分の考えたことを書く。(考えを深める)

「塩害でも田植え」の記事を読んで児童は「塩害で米づくりが難しいのに、がんばって、前向きに米づくりをしているところがすごいなと思いました。」「友達も私の意見と同じだなと思いました。」といった考えをまとめることができた。

また、9月には、その後の様子が掲載(資料1)され、学習の中で簡単に紹介した。



【資料1・朝日新聞 2011.9.8】

(2) 実践2

① 単元名

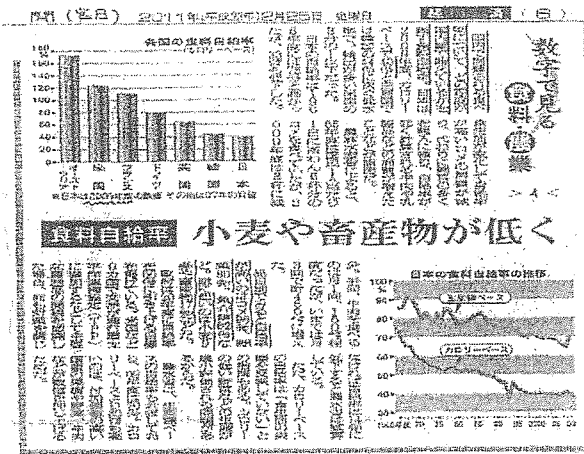
「わたしたちの暮らしと食料生産」

② 概要

小単元「これからの食料生産とわたしたち」の学習のまとめとして、食料自給率について考えを深めさせることをねらって取り組んだ。

ここでは、各国の食糧自給率の比較

と日本の食料自給率の推移を示した記事（資料2）を活用した。学習の流れは以下のとおりである。



【資料2・宮崎日日新聞 2011.2.25】

- 1 記事についての説明
- 2 グラフの読み取り
- 3 分かったことを書く。(理解させる)
- 4 自分の考えを書く。
(学習内容と関連付けさせながら、
自分の考えをもたせる)
- 5 友達の見解を聞く。(考えを広める)
- 6 友達の見解を聞いた後の自分の意見や
提案を書く。(考えを深める)

児童は学習した内容と関連付けながらじっくり考え、自分の考えをまとめることができた。

児童の記述1

「日本の食料自給率はとても低いことが改めて分かりました。日本の食料自給率は1965年は73%だったのに、なぜ、2009年には40%と低くなったのかなあと思いました。また、オーストラリアぐらいに100%を超えたらいいなあと思いました。」

児童の記述2

「昔は米を多く食べていた。でも今は、パンなどを食べる人が多くなって、自給率の高い米を食べる人が、なぜ少なくなっているのかなあと思いました。」

児童の記述3

「米は自給率が高くて、よく食べることができなのに、何であまり食べないのかなあと思いました。日本の食料自給率が高くなればいいなあと思いました。」

(3) 実践3

① 単元名

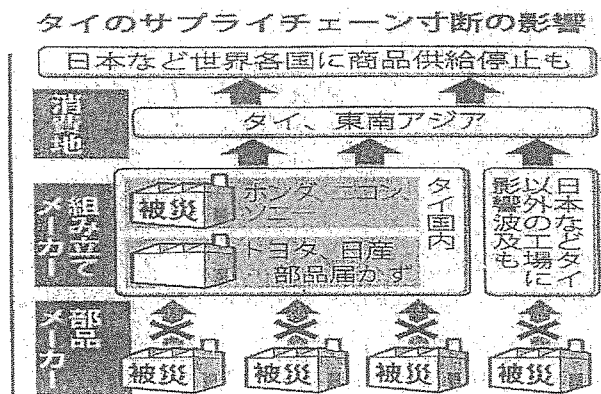
「わたしたちのくらしと工業生産」

② 概要

小単元「自動車をつくる工場」の「自動車の部品をつくる工場」の学習では、日本国内だけではなく、海外でもサプライチェーンが成り立っていることを理解させることをねらって取り組んだ。

タイにある部品工場が洪水の被害を受け、日本の組み立て工場にも影響が出ている記事（資料3）を活用した。タイの工場と日本の自動車工業のつながり、組み立て工場と部品工場の関係がわかりやすい図が掲載されており、サプライチェーンを分かりやすく説明することができた。

11月には、タイ工場操業一部再開の記事（11/22付け読売新聞）を紹介した。



【資料3・毎日新聞 2011.10.18】

「環境・人にやさしい自動車づくり」の学習では、人に優しい自動車づくりについての理解を深めることをねらっ

て取り組んだ。

自動車メーカー各社の事故防止のための安全技術を紹介した記事(資料4)を活用した。



【資料4・毎日新聞 2011.10.25】

ここでは、事故が起きても大げげにならない工夫や足の不自由な人が運転できる工夫などについて学習した後、記事の内容について説明をした。現在も衝突しない技術など、人に優しい様々な技術の開発が進んでいることに児童も驚いていた。

(4) 実践4

① 単元名

「わたしたちの生活と工業生産」

② 概要

小単元「日本の貿易の特色をまとめよう」の学習では、新聞から工業や貿易について理解を深めるために取り組んだ。ここでは、児童が興味をもった記事を選ばせ、その記事に対する自分の意見等をまとめる学習を計画した。

一部の児童ではあったが、学習を進める中で、「自由な貿易」という教科書の言葉から「TPP」の話題へと発展した。そこで、「TPP」について分かりやすく説明した小学生新聞の記事を活用した。個人差はあったが、記事をもとに「TPP」についての自分の意見をしっかりとま

とめることができた。

児童の記述4

「私はTPPに反対です。理由は、消費者が安い輸入品ばかりを買い、日本の品物を買わなくなると、日本の品物を作る仕事なくなるからです。私たちは安い品物を買うことができますけど、農家の人たちは農作物が売れず困ります。日本の自給率も40%ととても低いので、このまま農家などがなくなると、地産地消どころか自給率がさらに低くなると私は予想しました。TPPの問題は、いいところもあれば、悪いところもあるので、大きな問題だと分かりました。」



【資料5・毎日小学生新聞 2011.11.24】

今回は、2時間扱いで計画し、記事を4つ選ばせたが、多すぎた。1つの記事についてじっくり読ませ、意見等をまとめさせるとよかった。選ぶのに1時間、読むのに1時間、書くのに1時間以上かかった。

2 日常の活動

(1) スクラップ 5の3

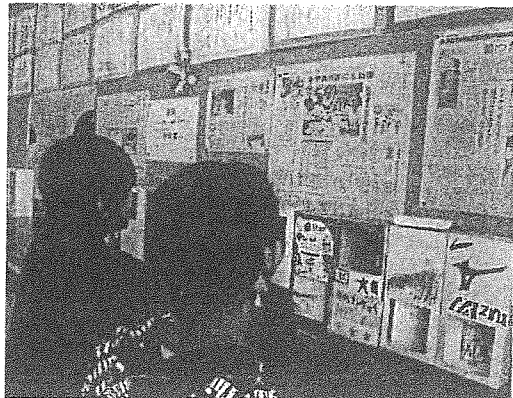
児童に1冊スクラップノートを準備し、興味のある記事を切りぬいてノートに貼らせ、記事に対する感想を書かせた。

(2) 新聞原稿作成

宮崎日日新聞社の「みんなの学校」という企画で、6年生が学校紹介の原稿を作成した。

(3) 新聞コーナー

児童が気になった記事や担任が紹介した記事等を学級の新聞コーナーに掲示した。【写真1】



【写真1・新聞コーナー】

3 家庭との連携

これまでの学習をいかし、社会的事象に関心をもたせ、自分の意見を表現する力を伸ばすとともに、ファミリーフォーカスとしての活用をねらい、夏季休業の課題として「第2回いっしょに読もう！新聞コンクール」（日本新聞協会主催，資料6）に取り組んだ。

【資料6・「第2回いっしょに読もう！新聞コンクール」の内容】

- 1 記事を選び、選んだ理由を書く
- 2 記事を読んで思ったこと考えたことを書く
- 3 家族や友達の意見を書く
- 4 家族や友達の意見を聞いた後の自分の意見や提案を書く

児童の実態等にも配慮しながら取り組んだ。（資料7）

【資料7・配慮事項】

- 保護者への協力依頼
- 親戚や祖父母宅等にある新聞の活用
- 担任が登校日に新聞を準備
- コンビニ、駅売り等の1日分だけ新聞を購入

児童の取組を見ると、社会科で学習した米づくりに関連する記事を選んだり、

平和について母親と一緒に考えたりした児童がいた。また、東日本大震災に関連する記事を選んだ児童の意見からは、命を大切にしたい、一刻も早い復興を願う児童の素直な気持ちが伝わってきた。

5年生の積極的な取組が評価され、学校賞（全国で10校，うち小学校3校受賞，県内では初めて）を受賞した。

IV おわりに

児童の学習が、新聞の情報を活用することによって、社会とつながっていくのが分かった。児童も学習した内容が新聞記事に掲載されていることで社会的事象への関心が高まっていた。

しかし、新聞を使うことが目的になった授業になってはならない。何のためにこの新聞記事を使うのかを十分に検討し、授業に活用していかなければならない。教科の目標を達成させることはもちろん、児童にこんなことに気付かせたい、理解させたい、思考を深めさせたいという目的を明確にした授業をつくっていくことが大切であるということを改めて感じた。

◆ 参考文献等

- 社団法人日本新聞協会
NIE全国大会青森大会資料 2011.7.25
- 社団法人日本新聞協会
授業提案 2011年3・11大震災新聞で考える
NIEガイドブック特別号 2011.7
- 東京書籍株式会社 新しい社会5上・下
2011.2.10
- 文部科学省 学習指導要領 2008.3
- 文部科学省 学習指導要領解説国語，社会
2008.8